

2009年1月15日  
第180号

題字 住谷悦治



燎原社  
(京都の民主運動史を語る会)  
代表 岩井忠熊  
事務局  
京都市左京区高野東開町1-23  
第三住宅33-302 井手幸喜  
〒606-8107  
tel & fax 075 (722) 3823

B	BOOK	6	例会案内・例会報告/情報スクランプ/編集後記
大映のレッドページと私	黒住嘉輝	早見栄子	
戦没学生永田和生の靈に訴える友の呼び声	井上吉郎	児玉健次	
連載ソビエト友の会の歴史(下)	馬原郁	山内年彦	
韓国ドラマ時代劇に見る日本の侵略	11	10	9
山宣生誕120年・没80年記念行事の概要	9	8	7
短歌 生地大連	4	2	

[連載]

## この一枚



1929年3月5日に山本宣治代議士は暗殺された。今年は没80年にあたる。娘たち（中央が治子、左・美代）と遊ぶ山宣。1925年、山宣が36歳頃とみられる新発見の写真（提供=本庄豊）

イラク戦争の泥沼化でブッシュ米大統領は袋小路に追いこまれ、折柄その米国から発した世界的な金融危機の中にオバマ大統領への交代がきまりました。民主党政権の下でアメリカがこの危機を脱出できるか否か、アメリカの従属的「同盟国」である日本はどうなるのか。失言つづきの頼りない麻生首相の下で、否応なく総選挙が間近に迫ってきます。

一九二九年の世界大恐慌は、第二次大戦の直接の引き金だったといえないとしても、その最大の要因だったことは否定できません。その情勢下、日本とドイツはファシショ的独裁に走り、第二次大戦の引き金を引きました。人類はこの歴史に学ぶことで、第三次大戦を防ぎ止めることが可能です。

歴史は、人間の性よりもない行為のくり返しだけだったわけではありません。いつも変化と進歩がありました。さしあたって現代日本社会に生じつある変化に注目したいのです。憲法九条の改悪阻止に立ち上がる全国各地の運動の広がりと、ワーキングプアの中から現れつつある青年層の動向を、進歩のきざしと見ることができるか否か。そういう動向を真に前むきにするためには、日本の民主運動の歴史に学ぶことが必要です。迂遠に見えても、われわれの会はその責任の一端を果たすつもりです。新年をむかえるにあたり、皆さんの御健勝を祈るとともに、一そくの御支援を願つてやみません。

## 今、民主運動の歴史に学ぶ

新年にあたつて 代表 岩井 忠熊

# 大映のレッドページと私

—08年8月例会での報告—



早見 栄子

レッドページとの関わりで話をす るようにとのご依頼ですが、私の生 い立ちから話を始めさせて頂きま す。一昨年、京都市芸術功労賞を頂 いた時に、私のプロフィールと出演 舞台をまとめましたので、その年表 に沿っての話です。私は昭和4年、 和歌山市内で仏壇屋の娘として生を 享けました。戦時色が次第に強くな るなかで、それなりの生活をおくつ てはいましたが、高等女学校時代は 三菱電機への学徒動員、卒業後に和 歌山市への空襲でお店も焼失。海南 市へ疎開し、蕎麦などを作つての疎 戰争も終わつて、働く場所もなく、 臨時教員も選択肢のひとつだつたの ですが、新聞広告を見て女優を志願、 京都で試験を受けました。昭和21年、 16歳の時です。第一期のニューフェ イスとして大映京都に入社。受験の 時から、京都にいた叔父のところに 空いていた軒家に両親とともに暮 らすことになります。翌年には母が

若くして他界、職を得はしたもの、 当時の給与は80円だったかな。闇で お汁粉が一杯10円の時代です。いろ いろと苦労することとなりました。  
稻垣浩委員長・加藤泰書記長の下で  
当時の大映は満映からの帰還組も いらつしやいました。占領下の映画 づくりには様々な制約がありまし た。GHQによって刀を抜くことさ え禁止されていましたから、殺陣師 さんは大弱りでしたね。占領軍から の指示もあつたようで、組合運動は 盛んでした。委員長が稻垣浩さん、 書記長が加藤泰さん。青年部や婦人 部もありました。私は婦人部長。

松竹もストライキをやつて、大映 もやらないと睨まれる、ヤラセと思わ れるようなストライキもやりました。 ストライキ中は、することがないので、 翌日から門のなかはヤクザのお兄さ んたちで固められ、一歩入ると二人 掛りでつまみだされる。私は婦人部 長として組合員の要求を会社に納得 してもらうために、署名を集めたり、 個人的にアカハタを配つたりしただ けなのに、そんな理由で解雇され んで納得できる訳がない。会社の 前に小さい場所を借り、自分たちの 思いをビラにして組合員の皆さんに 配るのが日課になりました。昨日ま

田雅一社長、労働者も含めた経労協、 普通は労働者が経営に加わらなかつ たでしようから、経営協なんでしょう うけどね。大映独特だったのかも知 れません。  
昭和25年9月15日、突如：  
「占領政策に従い、共産主義者と その同調者は企業を破壊する虞があ るためこれを排除する」大映のレッ ドページは、昭和25年9月15日のこ とです。

忘れもしない、淡路島での海女の 役でのロケーションが終わり、深夜 に帰宅したあくる日のことです。演 技道場で突然解雇が言い渡される。 「やっぱり時代劇、抜けへんな」と 笑つてました。何でページにあつた のか。朝鮮戦争の為だつたのかとい う思いでしたね。  
ページにあつたなかまは、裁判に から、リーダー格の佐藤春人さんが 「やっぱり時代劇、抜けへんな」って 提訴に至るまでの過程で作成された 資料で、日付の早いものは、昭和26 年9月24日「解雇無効仮処分申請」、 レッドページは22名、裁判に訴えた のは11名でした。裁判の途中で若杉 光夫さんは民芸に入り、郷田三朗・ 杉田安久利・森清桂さんも裁判から 拠けました。私を含めて、村上進・ 宮林光蔵・黒田継子さんの4名が解 扱無効の判決で、佐藤春人・宮脇義 雄・黒田清巳さんの3名はまったく

で一緒に仕事をしていなかったなかまだ たのに、ビラを受け取る反応も、微妙 にギクシャクした感じを受けた記 憶が残っています。  
堺を乗り越えて、組合総会に訴え は組合の新役員が警戒している。「何 者だ!」「佐藤春人だ!」芝居がかつたやりとりもして、やつとの思いで飛び込んだ総会で、私たちは訴え たんだけど、皆はシーンと背中を堅 くして聞いていて、異様に重い空気が 流れていましたね。外に出されて から、リーダー格の佐藤春人さんが 笑つてました。何でページにあつたのか。朝鮮戦争の為だつたのかとい う思いでしたね。

逆の判断が下されました。黒田さんはご存じの通り、新藤兼人さんの脚本・監督「裸の島」のカメラマンですね。

この時の記録はドキュメントとして、新藤兼人さんが『追放者たち—映画のレッドページ』（岩波書店）として纏めてらっしゃいますので、資料も含め、そちらもご覧頂けたらと思います。京都地裁での弁護士は皆さんご存じの小林為太郎さんでした。

昭和29年、大映は私たち4名を控訴、佐藤・宮脇・黒田さんたちも控訴をしますが、私たちの場合は被告、佐藤さんたちは原告。まつたく逆の立場におかれます。私たちの裁判は大阪高裁でも勝つて、村上さんを省いて、3名が職場復帰を果たしました。昭和33年のことです。だけど、私は6ヶ月で、黒田さんも確か1年で退職。宮林さんは復職後に、再度解雇されてしまいました。

### 当時の苦しい生活を切々と訴え

私は、地裁での裁判の途中、昭和27年から、劇団京芸での仕事を始めてしましましたし、この年は合同公演「検察官」に出演、28年、正式に入団し「北京のどぶ」などの大役を務めることとなります。この前後の生活は厳しいものでした。半年の失業保険も切れ、東映にという話もあつたりはしたんですけど、とにかく食

べていかないといけない。

大阪高裁での答弁（昭和29年12月1日）の補足書面で当時の生活を記していますので、それを掲載しておきます。ページを受けても、生活は安定しているではないか、という原告訴の主張に対しても、私の書面での反論です。

「五年前の私の生活と今の生活を比べて見ればわかると思います。五年前、私は不況になつた父を助けて一家の経済を支えていました。今は馴れない力仕事で重い土を運んだり、こねたりしている父の厄介になつてある有様です。五年前はちゃんと一軒の家に住んでいましたのに、今は六畳一間に（二階の）親子四人が居ます。父の仕事も毎日ありませ



1984年『精霊流し』おばば役で「十三夜会奨励賞」受賞  
(撮影来住徳郎)

る。好きこのんで父を助けないのではないのです。助けても助けられないのです。：（中略）：食べるためには女給もしてきました。ビニールの行商もしてきました。しかし、私は人にこびてお金をもらうような仕事はどうしても出来ません。また商売もむきません。私は好んで女優を止めたのではないのです。止めさせられたのです。私は一生の仕事に女優をえらんだのです。女学校を出てすぐに大映へ入ったのです。これからも一生続けて行くつもりです。

もう一度大映撮影所へ帰つて働きたいと思います。：中略…もう売るものは売りつくし、質におくものはおきつくしてどうすることも出来ない所まで追い込まれています。大映株式会社は大きな会社です。私たちに少し位のお金を出したつてビクともする会社ではありません。又、私たちは何の根拠もなく首を切られて、生活を奪われたのです。：後略…」

### 17年目での決着

裁判で勝利した私と宮林さんは、とにかく大映はけしからんと、損害賠償の請求を提訴します（昭和34年）。弁護士さんは前堀政幸さんでした。私の場合は大映との示談で決着しますが、弁護士費用の支払いな

ん。一年の暮れだというのにここ一週間仕事がありません。父の苦しみを見ても私はどうすることも出来ません。好きこのんで父を助けないのではないのです。助けても助けられないのです。：（中略）：食べるためには女給もしてきました。ビニールの行商もしてきました。しかし、私は人にこびてお金をもらうような仕事はどうしても出来ません。また商売もむきません。私は好んで女優を止めたのではないのです。止めさせられたのです。私は一生の仕事に女優をえらんだのです。女学校を出てすぐに大映へ入ったのです。これからも一生続けて行くつもりです。

京都におけるレッドページは、50

年7月31日の「夕刊京都」に始まる。大映へのページは9月22日、松竹のそれは9月27日。大映22名、松竹17名が対象者となつた（大映は実質的に21名のページだったようである。「京都総評史」では、30企業、243名がレッドページにあつたとされている）。京都のレッドページの全体像は明らかになっているとは言いい難いが、早見さんの事例は、裁判での勝利、復職をかちとつた稀有名例ではないだろうか。

### 執筆者紹介

早見栄子（はやみ・えいこ）

劇団京芸俳優。元・大映京都撮影所。

京都府教育委員、民主主義学者

見玉健次（こだま・けんじ）

元・衆議院議員。札幌市在住。

山内年彦（やまとうち・としひこ）

故人。元京都府教育委員、民主主義学者

馬原郁（まはら・いく）

本会世話人。京都市左京区在住。

黒住嘉輝（くろすみ・よしてる）

本会世話人。京都市西京区在住。

井上吉郎（いのうえ・きちろう）

（webマガジン・福祉広場）編集長。京

# 戦没学生永田和生の靈に訴える

# 友の呼び声

**児玉 健次**（北海道・元衆議院議員）



は前述したとおりだが、以下いくらかのことを書き加えたい。

一、「聞」えますか命の呼びへの意見、感想から

永田和生（一九一六年—一九四四年）  
読書会活動を力にして京都大学学友

永田和生（一九一六年—一九四四年）  
読書会活動を力にして京都大学学友  
の戦時体制化に抵抗し、四一年一月  
候補、五月起訴。執行猶予で出所し四  
年九月、大学卒業の直後に陸軍に召  
され、四四年七月四日、インド、ア  
ナム州インパール道票四八里地点で

編集委員、「しんぶん赤旗」、同日曜版などの紹介で刊行を知った方々、私の友人、教え子ーと広い範囲に及ぶ。東京の女性からは永田の死を惜しみ、母せいの嘆きを思う「声なき声」と題する詩をいただいた。

た。 戦病死した。その短い生涯を追つた小冊子（児玉健次編著「聞こえますか命の叫び 戦没学生永田和生の『軍隊日誌』」（かもがわブックレット〇六年八月一五日）を刊行して二年余が経過し

三重県の八幡山は陸軍の演習場であった千種廠營を、名古屋市としているが、三重県菰野町にあつた旧陸軍演習場ではないかとの指摘が、かもがわ出版に届いた。菰野町に問い合わせたところ、指摘のとおりであることがわかり、お礼の手紙をさしあげた。

この間、私のところに多くの方々の意見、感想が寄せられた。永田をご存じの方々、各地の大学研究者、永田ゆかりの高校長、同校関係者、全国紙の

本年三月、永田の母せい（一八八七年—一九七三年）が、墨で「和生の遺品」と標記した紙包が、永田の長兄の

聞こえますか  
命の叫び

戰没学生  
永田和生の  
軍隊日誌



児玉 健次

がせいに戦後送った手紙、大學學士試験合格證明、陸軍入營命令、戰死公報写等が包みこまれていた。

えますか命の叫び」千代とその後の反響、新しく見出された「和生の遺品」の内容、この二点について執筆するよう、との求めがあつた。二点の概略

西山登紀子前参院議員などの方々とともに吉村久美子さんが参加され、寄書をきに「古い縁の糸がほぐれる思いで心

私は、「和生の遺品」から新しくつかみえたことをふまえて、「永田和生の遺稿を『戦没学生の手記』へ—母せいい、学友竹田恒男の努力から」と題する小文を、日本戦没学生記念会機関紙「わだつみのこえNo.一一九」(〇八年一月一五日)に寄稿した。

――ページにててくる吉村達次氏は、のちの京大経済学部教授でその夫人が府議会の副議長もつとめた吉村久美子さんです」と教示された。○六年九月、京都で「聞こえますか命の叫び」出版をお祝いする会が開かれ、過分なことと恐縮しながら岡田三抄さんと出席した。刊行に尽力してくださったこくた恵二衆院議員、井上哲士参院議員、西山登紀子前参院議員などの方々とともに

\*「日本労農通信」一三号、草深会編『抗いの青春 戦中を生きぬいた静岡高校社研運動の系譜』(同時代社) 八八年二月、梶谷善久編『レッドバージ自由』(図書出版社) 八〇年七月)

寄せられた文面から伝わってくる。  
ブックレット刊行後、最初に受けと  
つたのは日本共産党書記局長・市田忠  
義さんからの手紙だった。市田さんは

入社、五〇年七月、レッドページで退社。その後は東京で印刷所を経営し一九七九年五月、六一歳で病没されたことがわかつた。

争の一兵士として命を奪われたことへの哀惜の念と、無謀きわまるインパール作戦への怒りを、多くの方が共有され、ブックレットに収録した岡田三抄

介さん、洋介さんの長女、岡田三抄さんのご厚意で、新しく見出された「遺品」を拝見する機会を得た。

私の手もとに百通をこす手紙、はがき、ファックスがある。永田和生の弟東洋介さん、長女岡田三抄さんのところに少ない感想、照会等が寄せられている。

「、「聞」えますか命のさび」への意見、感想から

あたたまる時がもてました。これをさらなる力として頑張ります」と書き記していただいた。

ここでは、二つの感想を紹介しておきたい。

（民主青年新聞（〇六年一二月一日））

（アジア・太平洋）戦争による犠牲者はアジア二千万人、日本三一〇万人といわれるが、その一人ひとりに人生があり、大切な家族や友人がいたのだ」と、本書を読んであらためて思う。

永田和生は京大在学中、治安維持法違反で起訴され、出所後、軍隊に入隊した。そのとき書かれた一年にわたる日誌には、軍隊生活だけでなく、イタリア降伏による犠牲への不安、母と弟・洋介への切々たる思いがつづられている。そこには、ぼくらと同じ一青年の、等身大の姿が見える。

永田の日誌が最初に収録された「わだつみのこえ」には、いま生き残った人々は沈黙を守るべきなのか?」。いま、憲法守れの声をあげることが、永田の声なき叫びと、この間にこたえることなんだとつよく感じた。（神奈川 しろくま）

と日本のそれと、君の健在を祈る」――永田和生の友人宛の手紙の結びの文章です。

四〇年前、私は北見柏陽高校で著者のかすんでいた。児玉健次先生から日本史の授業を受けました。三年生の最後の授業は「ビロシマ」でした。戦没学生の話がどのような場面でされたのか覚えていませんが、冒頭のフレーズは今も口ずさむことができますから、私に強い印象をもたらしたことは間違ひありません。

大学入学後、「きけわだつみのこえ」を読みました。児玉先生の著書をみて當時の本を取り出しました。「僕は考え読みました。世界戦争の激しい展開の中を力強く自己を貫徹していく法則を」にマーキングがありました。（略）

姪の三抄さんの詩「もだえ聞こえるわだつみ」あなたの怒りその思い私は生きて今ここにあなたの命叫びます」も深く心に響くものでした。

## 一、母せいが残した「和生の遺品」から

今年三月に見出された「和生の遺品」は、清酒の包装紙で包まれている。永田の生家は伊勢参りの道すじで古くから酒屋を営んできた。「遺品」の中で最もっとも日付が新しいのは、母せいの「昭和二十八年七月四日 和生逝きて早や十年とはなりました」に始まる長文の追憶である。

「遺品」は五年前後、せいが六十歳代後半のころに包みこまれ、約半世

紀、家屋か蔵の片隅にひっそりと置かれていたのではないか。紙は黄ばみ、筆跡はかすんでいる。せいの思いがこもる「遺品」を、そのまま眠らせることはできないと私は痛感した。

せいの照会で、留守業務局ビルマ課が「森（ビルマ方面軍）一〇〇二二部隊永田和生殿の御戦死」を通知してきたのは四七年五月だった。永田の訃報に接した竹田がせいに書き送った手紙を紹介する。永田を失った深い悲しみとともに、三八年から四〇年、京都大学読書会グループの生活と活動の一

部が活写されている。

竹田恒男が永田の母に送った手紙

御便り悲しく拝見しました。

母上は尊い宝を失はれました。私も亦かけがへのない人生の伴侶をなくしました。ほんとうに寂しいことです。今となってはたゞ母上の心のうづきを深めるばかりかとは思ひますが、永田君の靈に訴へる友の呼び声を聞いて下さい。

君と僕とは大学時代、恐るべき当時の暗黒の世界の中で、光明を求め、同じ辛苦の道を選んで結ばれたものだった。君がかゝげる燈火は國を蔽ふ暗闇

ときた。君がかかる燈火は國を蔽ふ暗闇

ときた。君がかかる燈火は國を蔽ふ暗闇

ときた。君がかかる燈火は國を蔽ふ暗闇

ときた。君がかかる燈火は國を蔽ふ暗闇

ときた。君がかかる燈火は國を蔽ふ暗闇

ときた。君がかかる燈火は國を蔽ふ暗闇

屋には灼熱の炎の如く燃え続けてゐた。壁にはアルプスの山の写真と日本型トラクターによる農村の作業の写真が貼ってあった。君は山が好きだった。

周到な準備が必要だと言つてゐた。そしてはかり知れぬ労苦の後に、絶頂を極めると言ふ大歓喜があるのだと言つてゐた。君はそのやうな人生行路を自ら選び予想してゐたのである。そんなに好きな登山さへ、君は学生運動の為に遠慮すると言つていた。そうしては農村の写真を眺めながら、農村民主化の道を論じあつたものだつた。（略）

大野、伊藤両君が卒業してからの学友会活動は君が中心であり推進力であつた。演説とか、交渉とかいふ派手な活動は君は余り得意でなかつた。柴田や僕がひきうけた。然し、活動の根本方針とか立案は常に君によつてなされてゐた。（略）

君の偉さは單に我々グループの支柱

ときには君だけは農学部の教授たちから「大学に残つては」といふ信望さへ得たことにあつた。（略）

こう書きしるして來ると君に対する思ひ出はつきない。植物園、詩仙堂、さては大文字山の谷深くや、大津の寺でもつた数々の秘密会合、彌酒の下宿の屋根で日曜のつづれに、日なたぼ

づに書物に埋もれて頑張つてゐた。民衆革命を目指す一学徒の信念がその部と。（略）

君はほんとに親思ひだった。我々の仲間で第一番の親孝行者だった。單に青春の意気に激した革命家では決してなかった。

くうけとめて、自分も亦、死するまで正しき道をすゝむであらう。

## 「大照八重子」を知りませんか？



大照八重子とみられる女性の写真

たる信念を持った立派な闘士であり、それ以上にすぐれた人間だった。今日のこの戦ひを見ずに去った君は、どんなに無念であつただろう。船出に際して君の寄せられた手紙は確かに僕の手もとにとどいてゐる。母上への思ひやり、世界情勢の見透し等、軍隊生活の重い圧迫の下で君の信念は微動だになかつたことをその便りは雄弁に物語つてゐる。僕もその便りを胸中に納め、戦友に示しつゝ鬱ひぬいて来た。それだけに君の悲報はますます僕の胸を耐へ難く苦しめる。

惜しみても、惜しみてもあまりある友。

今はたゞ安らげく眠れ。君が志を堅

「付記」遺品の中に、せいにあてた大照八重子の手紙二通がある。一通は食糧メーデー（四六年五月一九日）に参加した後、永田のビルマから帰国を待ちわびるもの。もう一通は永田の訃報がせいから届き、「叔母様に聞かなればよかつた」と嘆き悲しむものである。手紙には「沢山の本を読まして頂いたり、本を頂いたりして」とある。

戦後は東京で日本共産党员として活動したことが読みとれる。手紙には永田への敬慕の思いがあふれている。せいのアルバムに洋介さんも知らない若い女性の写真が貼られていた。大照八重子をご存じの方があれば、ご教示いただきたい。

大照八重子の手紙二通がある。一通は食糧メーデー（四六年五月一九日）に参加した後、永田のビルマから帰国を待ちわびるもの。もう一通は永田の訃報がせいから届き、「叔母様に聞かなればよかつた」と嘆き悲しむものである。手紙には「沢山の本を読まして頂いたり、本を頂いたりして」とある。

戦後は東京で日本共産党员として活動したことが読みとれる。手紙には永田への敬慕の思いがあふれている。せいのアルバムに洋介さんも知らない若い女性の写真が貼られていた。大照八重

子を「お母さん」と慕っていた。母上への思ひやり、世界情勢の見透し等、軍隊生活の重い圧迫の下で君の信念は微動だに

なかつたことをその便りは雄弁に物語つてゐる。僕もその便りを胸中に納め、戦友に示しつゝ鬱ひぬいて来た。それだけに君の悲報はますます僕の胸を耐へ難く苦しめる。

惜しみても、惜しみてもあまりある友。

BOOK

## 『女工哀史』から80年

細井和喜蔵を顕彰する会編

——いま、和喜蔵の声が聞こえる

『女工哀史』の著者として知ら

れる細井和喜蔵生誕の地、京都府与謝郡与謝野町加悦奥の鬼子母神境内に「細井和喜蔵碑」

大阪時代の和喜蔵についての発掘、故郷に碑が建立されるまでの経過など、『和喜蔵作品を読む』では、最も完成度が高い傑作『モルモット』

原重一・元加悦町長の思い出や、が建つ。昨年一月二九日、第五〇回目の碑前祭が四五人が参加して行われた。

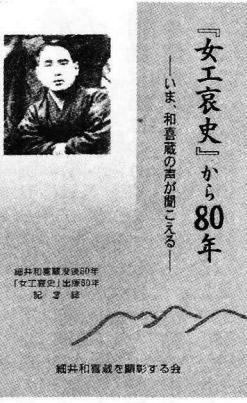
碑文には「明治三〇年（一八九七年）五月九日当町に生まれ 大正一四年（一九二五年）八月一八日

東京の亀戸で二八歳の若き生命を閉じた細井和喜蔵は、その紡績労働者としての闘争経験に基づき

『女工哀史』等の不朽の名著を残した。その名誉のため、東京青山の無名戦士の墓に呼応して、大方の寄附によってこの碑を建てた」とある。

『女工哀史』が改造社から刊行されたのは一九二五年七月一八日だが、同年八月一八日、細井は死去。二八歳であった。この本は没後八〇年・『女工哀史』出版八〇年記念誌として昨年一二月に「細井

## 過去の話ではない「哀史」



ト」（遺稿）など五作品を収録、  
（資料編）に加藤宗一、沢村秀夫、夫人・高井としをらの文章と除幕式の記録などを収めている。

『女工哀史』は過去の話ではない。年末に大量に解雇された派遣労働者ら失業者群。ルールなき資本主義は少しも変わってない。だからこそ「いま、和喜蔵の声が聞こえる」の副題が付けられた。

（A5判230頁・1300円  
あまのはしだて出版）

# 「ソビエト友の会」の歴史

(下)



年内彦

## ロシア語講習会

友の会の最も重要な仕事はロシア語講習会であった。昭和七年四月、田中下柳町に事務所が設置されて、一階の六畳ふたまが会場にあてられた。主任講師は天理外語ロシア語教授井田孝平であった。テキストは八杉著「ロシア語階梯」およびソビエト友の会版「外国人のためのロシア語読本」が使用された。井田教授は老齢であったが週一回、奈良市芝辻の自宅から定刻に出勤した。生徒は当初、五十数名であった。さまざまに階級と年齢の生徒たちであった。最終回（八月終わり）には生徒は十人足らずに減少した。授業に際しては毎回、川端署から特高が会場に臨席して眼を光らせた。生徒（聴講生）で有名人は末川博、滝川幸辰夫妻、恒藤恭、加古祐二郎、佐伯千鶴、大岩誠、松田道雄、能勢克男、住谷悦治、猪木正道（当時三高生徒）らであった。当時の困難な社会情勢のもとに第一回ロシア語講習会が財政的に赤字なく無事終了したことは親ソ活動として高く評価すべきである。この成功は友の会の宣伝活動のたま

ものである。九月に予定された第二期講習会の広告費をかせぐため杉山茂書記（小児科医）は一ヶ月間、福知山市、内記四丁目、飯田三美の無産診療所にアルバイトに出かけて多額の手当をもらつたが報酬の過半をロシア語講習会にカンパした。

友の会は第二回ロシア語講習会を東京より湯浅芳子を講師として迎え

て開始しようとした時に警察の干渉で計画をつぶされた。そこで講習会の規模を縮小し非合法に第二期講習会計画がたてられた。杉山茂書記と大岩誠（講習生、京大法學部助教授）は午後四～六時に変更された。テキストは松田征著「ロシア語新読本」およびロシア小説の一部、プラウダの記事も採用された。この講習会には京大経済学部の出口勇蔵や京大医内科の岡田良一、京大医小児科の佐川一郎も新たに参加した。楽友会館での講習会は警察に気づかれない一年余り続いたが、講師の守屋長がボーランドに留学ときまわり、講習会は中止となつた。第二期（立命館）、第三期（京大楽友会館）講習会が縮小した形で挙行されたのは警察の眼を逃れるためであつた。当時の社会情勢としては多人数の生徒を警察に気付かれずに集合させることは全く不可能のことであつた。

（理科）出身で京大文部言語学科に入學し卒業後大学院生となつた、専門は蒙古語であったが彼は神戸のロシア人の家にアルバイトした傍ら下宿してロシア語を学んだ。立命館での講義は週二回、午後六時～八時まで。十二、三人の生徒ができた。テ

## ロシア物産ペトルウシュカ

ロシア物産は組織的にもまた財政的にも友の会とは別な企業であった。

ロシア物産は太田典礼と高橋松藏の着想で始められたもので開店の目的は親ソ活動の大衆向け窓口を拡大するためであった。ロシア産の飲食料品や民芸品は大阪の貿易商、大門英太郎を通じて神戸のソ連総領事館より分譲してもらつた。店は昭和七年四月に友の会事務所にならんで設置され利用者が多かつたが同年十月に友の会事務所移転の際に、活動の窓口をさらに拡大することをもかねて三条河原町東側に移された。新店には机、椅子も備えられて来店者の社交場にも利用された。筆者は昭和八年春、この店を三高の同窓生安達嘉一と訪れ、ウオトカをジンジャエールで割つて飲んだ記憶がある。店の運営は安達征一と宮城雄太郎があり、後に国行義道も、これに加わった。しかし時局を反映してソ連総領事館からロシア物産品を入手する事が困難となり、そのため店は経営不振となり、昭和八年末には店じまいとなつた。三条河原町の新店が開設されたことには、いささかいわざがあるので貴重な紙面をかりて一言する。

昭和五年プロ科関西支部講演会で講演をした山下徳治は鹿児島県で小学校長をしていてたが、日本では古いマルクス主義教育者である。彼は教育体験を通じて從来の教育勅語中心の教育体系に疑問をいだき新興教育研究所を東京に開設し、その責任者となつた。山下

徳治の前記講演をきいて京都市で数名の教員が教育研究サークルをつくり「教育勅語をバック・ボンとする教育制度」に批判的討議を重ねた。筆者はその頃（昭和四年）三条のY.M.C.A.会館で同志社大学教授の教育勅語中心の教育に反対する講演をきいたが警察はこの集会に何等の干渉もしなかった。ところが、一寸時間はずれたにしても治安当局は義務教育教員に対しても極めて厳しい態度で対応した。上記教育研究サークルは当局に探知され、そのサークル・メンバーは全員教職から追放された。安達征一、人見亨ほか数名である。安達は職を離れてから「友の会」の実務を担当することになった。太田典礼と高橋松藏は三条河原町のロシア物産の経営を安達にまかして職場を保証することにしたが店は一年あまり続いたのちに閉店のやむなきに至った。前記人見亨は亀岡市で農業に従事していたが終戦後京都府ミチューリン運動で活動し、のち亀岡市長選に立候補したが惜敗した、先年病没。安達征一は現在東京都に居住し健在である。（以下「三、大阪」は略。1977年記）

資料の提供、草稿の校閲等をして頂いた人々として安田徳太郎、太田典礼、高橋松藏、杉山茂、加納竜一、稻葉秀三、朝山新一、松田道雄、安達征一、大門英太郎ら。参考文献は安田徳太郎著「思い出す人々」（青土社発行）、松田道雄「京の町かどより」（筑摩書房発行）、日ソ協会発行「回想・日ソ親善のあゆみ」の中の第一章、園田四郎執筆の「戦前の日ソ友好運動の思い出」。

この集会に何等の干渉もしなかった。ところが、一寸時間はずれたにしても治安当局は義務教育教員に対しては極めで厳しい態度で対応した。上記教育研究サークルは当局に探知され、そのサークル・メンバーは全員教職から追放された。安達征一、人見亨ほか数名である。安達は職を離れてから「友の会」の実務を担当することになった。太田典礼と高橋松藏は三条河原町のロシア物産の経営を安達にまかして職場を保証することにしたが店は一年あまり続いたのちに閉店のやむなきに至った。前記人見亨は亀岡市で農業に従事していたが終戦後京都府ミチューリン運動で活動し、のち亀岡市長選に立候補したが惜敗した、先年病没。安達征一は現在東京都に居住し健在である。（以下「三、大阪」は略。1977年記）

ド ラマ「李濟馬」（イ・ジエマ・三〇話）の冒頭場面にはいきなり軍艦が現れます。日本の軍艦「雲揚」です。見物の群衆に撃ち込まれる砲弾。「一八七五年の江華島事件ですが、それより前一八六六年には仏・米が相次いで砲火をあびせています。

主人公イ・ジエマは妾の子で身分差や官憲の横暴と闘いながら医師として大成し「朝鮮医学の父」と言われた人で、本妻のいじめや自分の持病と向き合い「四象医学」を確立した哲学者でもあります。「四象医学」とは人間の体格を四つに分類し、予防も説く学説でドラマの最後に「外国の侵略、官僚の暴虐と腐敗、飢饉や重税に喘ぎ、食物も薬も買えない民衆を見守ることしか出来なかつたことは、当時の知識人には耐えられないことであつた。このようないうな時代背景の中で「四象医学」が

韓併合は目前です。「腐敗した官僚と闘う義兵団」「倭寇と癒着する役人」と複雑な情勢に翻弄されるジエマ。友人でもある義兵団の隊長に「今は政府と闘つていい時ではない、一緒に朝鮮半島を守ろう」と命がけで説得しますが、うどんは人間の体格を四つに分類し、予防も説く学説でドラマの最後に「外国の侵略、官僚の暴虐と腐敗、飢饉や重税に喘ぎ、食物も薬も買えない民衆を見守ることしか出来なかつたことは、当時の知識人には耐えられないことであつた。このようないうな時代背景の中で「四象医学」が

生まれた」と解説します。劇中、老医師が「アリラン」を唄くように歌います。ジエマが「露國も倭國も資源もない小国に勝手に進入してきて何をするのか、判らない」「先が見えない」と嘆きます。一九一〇年の日韓併合は目前です。

「王辰倭乱」とよびます。兵士の介護に必死の医師ホ・ジュンもまた妾の子、父親を旦那様と呼び、奴隸の子、父親を旦那様と呼び、奴隸の

「東医宝鑑」という名著を残し、韓

國・朝鮮ではよく知られた名医で

す。

「李濟馬」と「ホ・ジュン」

## 韓国ドラマ時代劇に見る日本の侵略



「李濟馬」と「ホ・ジュン」

七 れより前の一六世紀にこれも実在した医師を描く「ホ・ジュン」（六四話）では一五九二年の豊臣秀吉朝鮮出兵です。日本では「文禄・慶長の役」ですが、朝鮮では

まくいきません。終わり近くに描かれる倭寇との闘いは、涙なしでは見ていられません。ジエマが子供との語らいで「オモニは倭寇や虎より怖いんだ」とふざける所があります。

郁馬原品を高値で売りります。もっと前、五世紀の広開土大王を描く「大王四神記」では「倭寇が攻めて来ている」というせりふがありましたが、王の碑文には「四〇四年、王が倭寇を擊破」とあります。

こんな歴史は消してしまいたいと思いました。しかし、加害も被害も

その歴史は、永く記憶されるべきで

すが、時間の経過で風化は免れませ

ん。ドラマは師弟、男女、同僚、親

子の愛憎も描きますから、半分は楽

しみながら歴史もしっかり記録して

おく韓国の映像作りには深く感動し

# 5月23日に全国交流会

## 山宣生誕120年・没後80年 記念行事の概要

2009年は山本宣治生誕120年・没80年の節目の年。山宣の生涯と闘い、業績を顕彰し、遺志を受け継ぎうる同記念事業実行委員会（安斎育郎代表、事務局＝宇治山宣会）はこのほど次の通りその概要を発表しました。

### ■墓前祭

3月5日 12時10分～13時 あと「花やしき」で茶話会

### ■全国交流会

5月23日（土）18時 「花やしき」

### ■記念講演会

5月24日（日）午後、同志社大学寒梅館ホール 林直道  
(大阪市立大名誉教授)

### ■足跡を訪ねる信州の旅

10月10日（土）～11日（日）別所温泉など

### ■映画「武器なき斗い」上映会（各地）

16ミリフィルム「嵐の日の記録」「山宣葬」などのデジタル保存

### ■記念出版やDVD制作も

このほか記念出版（小田切明徳、本庄豊、宇治山宣会など）。山宣資料展示室改修・建設。ビデオ・DVD制作（宇治山宣会）、記念グッズ制作、関連出版、関連書籍普及。大阪山宣会の講演会など多彩な事業が1年間にわたり繰り広げられます。

事務局＝宇治市職員労働組合会員付（電話0774-2215653）

# 生地大連

（一）

霧深き周水子飛行場に降り立ちぬ今は大連国際空港

引揚げより六十年の時を経て生地大連の土を踏みゆく

生まれてより十二歳までを過ごせしが故郷と呼ぶを許されぬ土地

幼き日遊びし緑山の山頂に亘きテレビ塔霧まとい立つ

東本願寺跡と言われて見て通る大連神社はあとかたもなし

読めそうで読めぬ漢字の簡略体過ぎゆく看板目に追うばかり

飯店も酒店もホテルの呼び名なり招待所は素泊りの安宿という

己が特技書きし札立て道端に雇い主待つ出稼ぎ労働者

夏休みの一時帰省も引揚げも船なりき埠頭見下ろして佇つ

レトロなる市街電車にて訪れし昔のままなる満鉄本社

（二）

大広場が中山広場 通りの名も読みかえて過ごす旅の数日

ヤマトホテル大連賓館と名を変えて外觀そのままに広場を囲む

勝利橋・團結街などなじみなき表示を読みて歩みをとどむ

冬は凍りスケートしたる鏡が池児童公園となり人群くる

跡形もなくなりており玉砂利を踏みて詣でし大連神社

大連病院建物は当時そのままで百年を経し今も使わる

古希を過ぎ大連の街歩みおりおそらく再びは來ることなけん

ステッセルと乃木將軍の出合いたる水師營会見所復元されいき

会見所の片隅に小さき棗の木何代目かとささやき起こる

旅順高師に学ばんとして行きし父引揚げて間もなく死せり四十一歳

黒住嘉輝



テレビ塔のある緑山からの展望

卓 加藤周一さん

2008年12月5日死去。89歳。評論家・「9条の会」より  
びかけ人。立命館大学国際平和ミュージアム初代館長。



加藤周一さんが80年12月5日、89年的人生を閉じられた。人が一人死ぬと、図書館がそれだけなくなると言われる。加藤さんの場合、図書館だけでなく、博物館、美術館までもが消え去つたようで、喪失感は深い。成人して間もなく警咳に接し、20代で「言葉と戦車」に触れ、30代に「日本文学史序説」で驚き、40代以降に直接交流を持つてきた人と別れる。感慨なしとしない。

20歳の僕は、加藤さんが同志社のアーモスト館の奥の、狭い部屋に入つてくるのを待つていた。午前中に講演を聞いて、午後の懇談のためだ。20人ほどの参加者だつただろうか、20年ほどして聞くと「私もある会合に参加していた」という人が現れた。加藤さんの鋭い眼光が印象に残っている。1965年4月の現実、以来僕は、熱心な読者になり今日につづく。

加藤さんを次に強く意識したのは、チエコスロバキアへの、ソ連軍の侵略事件だった。

エコ事件について書いている。そこに  
は、僕の知りたかったことが書かれて  
いる。筆者は、直前まで現場に居わ  
せている。民主主義国家がなぜ他国を  
侵略できるのか、ハンガリー事件とど  
こが違うのか、世界と日本に事件はど

# 戦争と核兵器憎んだ知識人

井上吉郎（WEBマガジン・福祉広場）編集長

加藤周一さんが80年12月5日、89年的人生を閉じられた。人が一人死ぬと、図書館がそれだけなくなると言わわれたようだ。加藤さんの場合、図書館だけでなく、博物館、美術館までもが消え去ったようで、喪失感は深い。成人して間もなく警咳に接し、20代で「言葉と戦車」に触れ、30代に「日本文学史序説」で驚き、40代以降に直接交流を持つて驚いた人と別れる。感慨なしとしない。

略に踏み切る。僕は23歳になつたばかりで、目の前で進む事件をどのように理解していいか、戸惑っていた。そして僕は、幸か不幸か、その時、長野県の軽井沢におり、全学連の合宿中だった。全学連の合宿と言つても、対象者は中央執行委員の共産党員で、40人ほどだったろうか。当然のことのように「アカハタ」が持ち込まれ、議論にもなった。僕が接した限りでは、不満が残り、

加藤は「言葉は、どれほど鋭くても、またどれほど多くの人々の声となつても、1台の戦車さえ破壊することはできない。」しかし、プラハ街頭における戦車の存在そのものをみずから正当化することだけはできないだろう。1968年の夏、小雨に濡れたプラハの街頭に対峙していたのは、圧倒的で無力な戦車と、無力で圧倒的な言葉であった」と書いている。そうだ。我々

くみ取っていた。  
チエコ事件と彼の言説から  
場に立つこととなる論理を、  
して僕は、社会変革にあた  
つてそれ以降搖るがない立  
のように影響するのか。そ

米諸国を訪ねてゐる。長くなるとそこで生活もしている。日本の国民年金は外国生活者の国民年金加入を認めていなかつた。我が国を代表する知識人と評される彼が“無年金”。驚きだつた。

どの参加者だったんだろうか、20年ほどして聞くと「私もあの会合に参加していた」という人が現れた。加藤さんの鋭い眼光が印象に残っている。1965年4月の現実、以来僕は、熱心な読者になり今日につづく。

モヤモヤ感は消えなかつた。なぜソ連は軍を出したのか、どうしてチエコスロバキアに犠牲が少なかつたのか、これの影響はどうなる…。

京都に帰つてしまふと、「世界」11月号に「言葉と戦車」と題する

の試みは、圧倒的な言葉を積み重ねることに尽きる。そのことを本當には理解せず、暴力を持ち出すと黙ってしまうだろうと考えたモスクワ指導部の無恥さ。物事を考える基準を得たように思つた。

しないことにしている。そう言う加藤さん、僕の望みはかなえられなかつた。

加藤さんを次に強く意識したのは、チエコスロバキアへの、ソ連軍の侵略事件だった。

エコ事件について書いている。そこに  
は、僕の知りたかったことが書かれて  
いる。筆者は、直前まで現場に居わ  
せている。民主主義国家がなぜ他国を  
侵略できるのか、ハンガリー事件とど  
こが違うのか、世界と日本に事件はど

僕は、学生無年金障害者の裁判に支援者としてかかわっていた。加藤さんは僕の訴えに耳を傾けて、「僕も無年金でね。国は国外の人間を加入できないようにしていたんだね」と言われた。加藤さんは日本を基軸に、主に欧

兵器を、心の底から憎む人だつた。京都  
大学の「花谷会館」の由来を、京大の  
門の中で僕が語つたとき、先生がしば  
らく沈黙したのが、僕には印象的だつ  
た。1945年秋のヒロシマを思い起  
こしていられたのだろうか。

米諸国を訪ねてゐる。長くなるとそこで生活もしている。日本の国民年金は外国生活者の国民年金加入を認めていなかつた。我が国を代表する知識人と評される彼が“無年金”。驚きだつた。

京都の民主運動史を語る会

## 2月例会案内

# 「山宣暗殺者—黒田保久二を追跡して」

とき 2月27日(金) 午後2時～

語る人 本庄豊さん(立命館宇治高校教諭)

ところ ひと・まち交流館京都  
第3会議室

(地図参照)

京都市下京区西木屋町通上ノ口上る梅渓町

(河原町五条下る東側) TEL: 075-354-8711

2009年3月5日は治安維持法に反対し暗殺された山本宣治の没80周年。暗殺者・黒田保久二の生涯を徹底的に追跡調査、「洛南タイムス」に連載した本庄氏から最新の情報を聞く。



市バス17、205号系統「河原町正面」下車

### 水谷効一さんのお別れ会

昨年9月29日に元京都平和委員会専従で事務局次長を務められていた水谷効一さんが突然亡くなられた。生前は「ウトロ問題を広げる会」で活躍されていた。同会を中心にして1月31日(土)午後2時～4時、ひと・まち交流館(河原町正面)でお別れの会が行われる。

編集後記



務められた。中野一新、小野一郎、杉本昭七、野村秀和、二場邦彦、岩井忠熊氏らが思い出を書いている。

## 12月例会 西山秀尚氏が語る 戦後の青年団運動

12月12日かもがわサロンで開かれ

た例会では西山秀尚・元共産党府議  
団長が「戦後の青年団運動について」

講演。米占領下、GHQの干渉や分  
裂・懐柔政策に抗しながら、京都の  
民主勢力の一員として粘り強く青年  
団運動を開拓してきたことを語りました。

府連合青年団団長、日本青年団協  
議会幹部としての長年にわたる経験  
からいわゆる左翼とは異なる人脈  
や運動の幅広さを感じさせ、興味深

## 10月例会 鑑賞と関係者の証言 「テントからの報告」

い証言が聞けました。16人が出席。

10月30日かもがわサロンでの例会  
では小川分会の闘争を描いた記録映  
画「テントからの報告」をビデオで  
鑑賞したあと、当時の争議団の一員  
で現在、かもがわ出版・新日本プロ  
セス会長の田村能史氏と、映画を製  
作した堀昭三氏(当時京都労映会長)

つ生き残るために圧倒されることも、  
保存の重要性も指摘されました。

## 情報 スクラップ



### 木原正雄氏を偲ぶ特集

「河上肇記念会報」92号(08年12月)

は同会顧問で元世話人代表の木原正雄  
先生追悼特集。08年6月23日死去され  
た同氏は1918年生まれ、京都一商、

ハルビン学院、立命館大学で学び、46  
年から京都大学経済学部に。学部長な

どを務め81年退官。高知女子大学長を  
6年間、京都府生協連代表理事なども  
から話を聞きました。

▼例会の参加者が増え、かもがわサロン  
の会場では少し狭いので2月例会は別記  
の通り、ひと・まち交流館で開きます。  
とつておきの話が聞けるはずです。お誘  
いあわせの上、多数ご参加ください。

▼かもがわ出版とも関係深かつた加藤周  
一さんとの永久の別れはつらい。20年に  
およぶお付き合い、京都のみならず北海  
道から九州、韓国、中国、台湾へもお伴  
しました。教えてもらったことはあまり  
にも多く大きい。京都でも追悼の会を開  
きたいと思っています。

(湯浅俊彦)

